

YELL

メール
第28号

那須教育事務所ふれあい学習課
〒324-0056 栃木県大田原市中央 1-9-9
Tel:0287(23)2177 FAX:0287(23)2193
Mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp
V o l . 2 8 平成26年3月

ステップアップ研修のまとめ②

2月の大雪には、本当にびっくりしましたね。もう、雪はうんざりと思っている方も多いのではないのでしょうか。春が待ち遠しいですね。

さて、今号も前号に続いて11月に行われた那須地区社会教育主事有資格者ステップアップ研修兼地域教育コーディネーター養成研修について御報告します。前号では主に長谷川先生の講話に関する内容を掲載しましたが、今回はグループ演習で考えた内容について取り上げていきたいと思えます。

演習は、中学校区ごとにグループになり、そこへ近くの公民館職員等が入り、ワールドカフェ方式を用い「学校と地域（公民館）の協働を創る」というテーマで、現状・対策・条件について考えました。

＜各グループのテーマ＞

A	協働を担う人づくり	E	協働を進める公民館づくり
B	協働で行う企画づくり	F	協働を支える住民の役割
C	協働を支える情報づくり	G+I	協働で豊かにする子どもの環境
D	協働を進める学校づくり	H	協働を支援するお年寄りの役割

上記のように、各グループの切り口は違いますが、考えていただいた内容を分析すると、共通点が見えてきました。



＜課題＞

- ① 学校と公民館の連携・つながりが不十分
 - ・教頭と公民館のやりとりはあっても、教諭とのやりとりがない。
 - ・公民館からのお便りがあっても、公民館の様子が見えない。教師側が活用しようとする意識が低い。
- ② 人を集めることが大変である。
 - ・子どもにゆとりがない。
 - ・親にゆとりがない、関わりをもとうとしない。（つながりをもとうとしない）
 - ・地域により差がある。地域住民の力をどうやって学校につなげるか。
- ③ 中学生、高校生の関わりが薄い。

＜対応＞

- ① 情報交換の場の設定
 - ・学校（管理職、社会教育主事有資格者、PTA役員）と公民館（職員、地域住民）とが交流、話合いの場をもつ。
 - 名前、顔を双方で覚える。
- ② 公民館の積極的活用
 - ・情報を教頭から教職員全体に振り分ける。
 - ・公民館コーナーを設け、公民館をPRする。
 - ・学校も教科やクラブで公民館を利用する。
 - ・公民館スタッフが学校へ足を運ぶ。
 - ・各公民館で特色ある活動を企画する。
- ③ 学校の窓口を明確にする。

＜条件＞

- ① 交流会や情報交換は、年に数回実施
- ② 学校と公民館がお互い助け合える環境をつくる。
 - ・お互いの年間計画の提供
 - ・担当者の明確化 ・習慣化
 - ・地域の各団体やボランティアの把握
- ③ 母親だけでなく、父親も巻き込むような行事の計画（学校も、公民館も）
- ④ 地域の指導者やコーディネーターの養成

これらの視点は、学校と地域が連携する際に、ヒントになると思います。これらをもとに、学校と地域の関係を見直してみると、できることが見えてくるかもしれません。

来年度からは、学校と地域の連携・協働をより具体化するために、地域連携教員の制度が新たに始まります。校務分掌上に、「地域連携教員（地域との連携を担う係）」という立場を位置付け、この地域連携教員が核となり、地域との連携を推進していきます。詳細については、次年度のメールにて説明したいと思えます。

